

第13回富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議 議事録

日時：令和6年11月1日（金） 13：30～15：30

場所：富山市役所 8階大会議室

出席者

〈委員〉

（五十音順、敬称略）

No.	氏名	役職	産官学金 労言デ	備考
1	石田 康博	連合富山・富山地域協議会 議長	労	
2	石動 瑞代	富山短期大学 幼児教育学科 教授	学	
3	今泉 潤	富山公共職業安定所 所長	官	
4	押川 実恵	富山商工会議所女性会 会長	産	11/1欠席
5	酒井 郁生	(株)シー・エー・ピー 代表取締役社長	言	
6	須田 直樹	全日本空輸(株)富山支店 支店長	産	
7	田中 悟史	(株)日本政策投資銀行富山事務所 所長	金	
8	長尾 治明	富山国際大学 現代社会学部 名誉教授	学	
9	中村 正美	(社福)富山市社会福祉協議会 専務理事	労	
10	橋本 淳	富山商工会議所 副会頭	産	11/1欠席
11	東出 悦子	(株)アイペック 代表取締役社長	デ	
12	星川 圭介	富山県立大学 工学部 環境・社会基盤工学科 教授	学	
13	松田 智生	(株)三菱総合研究所 経営イノベーション本部 主席研究員	産	11/1欠席
14	森口 毅彦	富山大学 経済学部長	学	

〈事務局〉

政策監、企画管理部長、企画管理部次長、企画調整課長

財務部次長、防災危機管理部次長、福祉保健部次長、こども家庭部次長、市民生活部次長、
環境部次長、商工労働部次長、農林水産部次長、活力都市創造部次長、建設部次長、病院事
業局管理部次長、上下水道局次長、教育委員会事務局次長

配布資料

富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議委員 委員名簿

「第２期」富山市まち・ひと・しごと総合戦略の検証について【資料１】

富山市の人口動態、人口ビジョン、目標人口【資料２】

富山市人口ビジョンの改訂骨子（案）【資料３】

「第３期」富山市まち・ひと・しごと総合戦略の策定について【資料４】

今後のスケジュールについて（案）【資料５】

富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議設置要綱【参考資料１】

第２期富山市まち・ひと・しごと総合戦略（２０２３改訂版）【参考資料２】

富山市人口ビジョン（改訂版）【参考資料３】

議事内容

１ 開会

２ 政策監あいさつ

３ 委員紹介、委員長選任、資料確認

４ 資料説明

「第２期」富山市まち・ひと・しごと総合戦略の検証について

富山市の人口動態、人口ビジョン、目標人口

富山市人口ビジョンの改訂骨子（案）

資料１に基づき、「第２期」富山市まち・ひと・しごと総合戦略の検証について」、資料２、３に基づき、「富山市の人口動態、人口ビジョン、目標人口」及び「富山市人口ビジョンの改訂骨子（案）」を事務局から一括説明。

５ 意見交換

委員

- ・ 資料２の P24, 25 のアンケート調査結果（転出・転入した理由）については、男女で観点が違うと思われるため、男女別に集計してはどうか。
- ・ 富山市出身で現在県外に居住し、富山市に戻る見込みのない方に対して、なぜ転出したのか W e b アンケート等を利用し調査してはどうか。

事務局

- ・ ご指摘の箇所について、男女の回答の違いを明らかにし、改めて説明する。
- ・ 県外在住の方へのアンケート調査については、来年度以降に実施を検討し、課題把握に努めたい。

委員

- ・ K P I（施策）について、計画期間中のコロナ禍等の状況変化に対応し、改訂など行ってきたのか。

事務局

- ・ コロナ禍に対応した改訂までは行えていないが、必要な改訂は毎年度行ってきた。

6 資料説明

「第3期」富山市まち・ひと・しごと総合戦略の骨子（案）について

資料4に基づき、「第3期」富山市まち・ひと・しごと総合戦略の骨子（案）について」を事務局から一括説明。

7 意見交換

委員

- ・ 人口減少社会への緩和と適応、この両立を図る内容となっており、共感がもてる。またDX、GXの視点も取り入れられており、今後は、このようなビジョンに沿った各種施策の展開が必要。
- ・ 若年世代の地域定着には、スタートアップ等の魅力的な産業の育成、企業誘致の施策を大胆に行っていくことが重要。スタートアップ企業はテクノロジーを上手く駆使し、生産性を上げることにより社会の課題解決に貢献していく点が特徴であり、域内の生産性向上に寄与する。また、スタートアップ企業のDX等の取組を、域内の中小企業等に横展開することにより、DX、GXの普及を促し、地域の経済循環を強く太くしていく施策の展開を期待する。
- ・ 富山のまちなかは、路面電車の南北接続など、人の流れを生み出すハード整備はされているが、賑わいや人流の創出はまだ途上と考える。人流の創出には、域内消費の拡大（税収増）や、若年層の出会いの場を創出（人口減少の緩和）等、様々な効果が期待でき、人流を太くする施策は有効ではないか。そのためには大胆な投資が必要だが、様々な官民連携手法の活用により、財政支出の抑制、民間の経営力の発揮が重要になる。

事務局

- ・ 若年層、とりわけ女性が、東京等から戻らない最大の理由の1つが、魅力ある働く場所がないことだと考えており、スタートアップ等の魅力ある企業をまちなかに誘致する取組は必要。県も積極的に行っており、県と連携しながら市の独自性も発揮していきたい。

- ・人流の創出における官民連携について、これまで行政だけで行っていた取組を民間にも促す具体的な施策を検討したい。

委員

- ・多様性は富山市の魅力であり、転入者の増や人口減少抑制の 1 つの核だと考える。まちなかから、郊外・中山間地域までを含み、個人の多様な選択やニーズにこたえられる点が富山市の強みであり、多様性を生かしたまちづくりが求められる。施策の満足度の地域間格差はあるが、知恵を出し、各地域の方が満足する施策の展開ができれば、結果として、多様な魅力を整備していくことに繋がるのではないかな。

事務局

- ・移住等の施策において幅広い選択肢を提示しているが、実際のニーズやこれまでの移住実績等においては、都心地区への移住が圧倒的に多い結果となっている。次年度以降は、多様性といったメリットは引き続き生かしつつ、ターゲットを絞った施策に取り組んでいきたい。

委員

- ・都会で働いている方が富山に戻ることを考えたときには、「職場」の先に「子育て」があるのではないかな。富山は非常に子育てしやすいまちであることを今以上にPRしていくことが大切。
- ・今後は子育ての“質”が魅力となり、子育てのためにどこに居住すればよいのか、という視点になっていくのではないかな。それに向け、こどもまんなか社会、「子育て日本一とやま」は、分野横断的に、継続して努力していくところではないかな。
- ・富山に住みながらも都会と同様の質の高い教育サービスが受けられるよう、DXを活用した距離を超える施策により、より高度な教育といったところを工夫していくとよいのではないかな。こどもまんなか社会の実現の中で、豊かな自然、あるいは手厚い子育て支援のあるまちに住みながら、都会と同様のサービスなどが受けられるまちを目指せばよい。

事務局

- ・まずは関係人口を増やし、二地域居住、いずれは移住、というプロセスを考えた際、首都圏から1時間圏内の長野、山梨、静岡等が二地域居住の先として選ばれている。富山の場合は2時間かかるため、差の1時間を埋めるだけの“質”を高めるとともにPRすることで、1時間の差を埋めながら二地域居住を促進したい。

委員

- ・町内会の役員や民生委員のなり手不足、防災、高齢者や子供の見守りなど、様々な点でコミュニティの維持そのものが困難になっている地域がでてきている。新たに『「共助」と多様な担い手による地域コミュニティの活性化』が重点施策として位置付けられており、期待したい。
- ・地域が将来にわたって存続していくためにも、人がいなくてはならない。そのためには、若い方の定住促進や移住者・転入者の定着が必要であり、シビックプライドの醸成も関連すると考える。子供の頃から、学校でも家庭でもない、地域での人との触れ合いの機会を設ける取組や、世代間交流の機会、若年世代の郷土愛、地元愛を育む取組を通じ、地域に支えられている、自分が地域を支えている、地域が自分の居場所の1つである、ということを感じられる取組を地域住民の方と一緒に考え、工夫して進めていく必要がある。

事務局

- ・小学生からのシビックプライドの醸成として、各学校におけるコミュニティスクールの中で、地域の人と田植えをするなど、地域の方との交流も盛んになっている。市全体の施策としても、協力できるところはないか考えたい。

委員

- ・安心して働ける場所があること、その上で生活基盤がしっかりしていることが大事な点であり、雇用環境の整備や、若者また女性が魅力を感じるような雇用の創出に取り組むことが必要。
- ・最近、外国人観光客が増えているが、多様性や、地域・経済の活性化のためにも1つの視点として、「外国人との共生」を取り入れてはどうか。外国人労働者が安心して富山市で生活をしながら、一緒に仕事や、交流ができるような生活環境整備も今後の着目点ではないか。

事務局

- ・今後、外国人労働者の必要性は、DX、GXが進む中においても必要だと考えており、共生という視点も含め、戦略の中に盛り込めるか検討したい。

委員

- ・施策のKPIを達成することも大事だが、それぞれの施策が総合的に密接に繋がっており、どのように各部署が連携し、より効果的に目標達成していくかが重要。そのためには、職員全員が戦略の理念を理解し、地域ビジョンも体得し、「緩和」・「適応」・「潤い」といったキーワードを身近に感じながら、実際に行動してい

くことが大切になる。これからの5年間で様々な変化が予想される中で、市民に一番近い市職員が、どう感じ、どうすればよいか、他の部署の職員とどう連携すればよいか柔軟に考え、また、市民も巻き込みながら施策を実施することが、より総合戦略の成果に繋がるのではないか。

事務局

- ・地方創生の取組は、部局横断で取り組むことが必要であり、地域ビジョンは、各部局で施策を考える際の方向性を明らかにするため、今回新たに設けた。今後具体の事業を考えていくにあたっては、地域ビジョンや分野横断的な視点の考えをしっかりと示していく。その上で、部局横断で取り組む体制も引き続き整えていきたい。

委員

- ・訪日外国人観光客数は毎月同月過去最高を更新しており、外国人観光客の誘致は目標をたてて取り組まなければならないと考える。北陸新幹線の延伸というトピックスもあり、富山県、富山市を目指して来てもらうよう取り組んでいただきたい。
- ・数値目標の次の施策の下に、個別の事業があると思うが、具体的に実が取れるような事業を位置付けて目標達成して欲しい。
- ・産業別就業人口推計で第3次産業人口が減少傾向なのは、女性の構成比が高いことが要因として考えられるが、観光産業が活性化すれば、新しい仕事が創出されるだけでなく、様々な業種で“稼げる”ことから、今後は観光施策も、重点項目としていただきたい。

事務局

- ・施策の中には、しっかりと外国人観光客の誘致について盛り込んでいきたい。今後は、観光も含め、“稼ぐ”という視点も重要になると考えており、様々な事業について積極的に取り組んでいきたい。

委員

- ・課題や現状をあげる場合は、市が関わる部分と、県あるいは国が関わる部分の整理が必要。
- ・一番大きな問題は人口減少であり、人口減少が様々な政策に影響を与えている。税収が下がっていく中で、施策の優先順位を考えないと、達成率、実行率が下がるのではないか。

- ・中小企業団地などの工業団地の造成や、新産業や成長産業を含めた企業誘致により雇用を生み出すことで、人口増加につなげるような取組を具体的に考えたら良い。
- ・今後空き家が増えていくので、上市町の0円空き家など、空き家の活用も、具体的な人口増の手段として使えるのではないかな。
- ・人口減少について、データから考えることも1つの方法だが、人手不足による路線バスの減便など、今起きている現象の中から、結果的に使えるもの、手段として使えるものを整理し、具体的な対応策を考え、目的に対して、具体的な目標を掲げて、政策を進めていくのも、1つのやり方ではないかな。

事務局

- ・少子化対策や人口減少対策は、基礎自治体だけで解決する問題ではなく、国は国の、都道府県は都道府県の、基礎自治体は基礎自治体の立場から取り組んでいく必要があると認識している。人口減少対策の中でも雇用施策は、最重点の施策と考えており、あわせて、空き家対策や人手不足にも対応していく施策を、今後検討したい。

委員

- ・県内大学卒業生の県内就職率は、目標達成に至っていないが、県内高校出身の県外大学生のUターン就職率についての分析はあるかな。

事務局

- ・改めて回答する。

委員

- ・スタートアップなどの企業誘致も同様に、人を呼び込むだけでなく、特に女性が継続して地域に定着するような具体的な施策を期待したい。例えば、具体的な仕事の内容や、仕事の理解を深める情報発信などを交えることで、長い目で見ると、定着に繋がるのではないかな。

事務局

- ・最近では若年層の離職が多くなっている一方、雇用の流動化の考え方もあり、判断が難しい面もある。市内に引き継ぎ留まってもらい、富山市の労働力として確保する仕組みを引き続き検討したい。

8 その他

資料5に基づき、第14回富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議の日程調整について、事務局から説明。

9 閉会

以 上